

Wesley Hall News

ウェスレー・ホール・ニュース

March, 2024 No.144

すべての人と共に平和を、
また聖なる生活を追い求めなさい。

ヘブライ人への手紙第12章14節



互いに仕え合う

大学宗教主任

高砂民宣



皆さんは、レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた『最後の晩餐』という有名な絵をご存知だと思います。イタリアのミラノにあるサンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院の食堂の壁に描かれた、とても大きな絵です。この絵に描かれているように、イエス・キリストは捕らえられ、十字架につけられ、殺される前の夜、弟子たちと一緒に、最後の夕食を共にされました。

食事がひと段落した頃でしょうか。イエス・キリストは突然、その食事の席から立ち上がりました。上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰に巻かれます。そして、たらいに水を汲み、弟子たちの足を洗い、手ぬぐいでふき始めたのでした。

弟子たちは驚きました。そして弟子の代表格であるシモン・ペトロは、慌てて言います。「主よ、あなたが私の足を洗ってくださるのですか」(6節)。「私の足など、決して洗わないでください」(8節)。しかし、イエス・キリストは言われました。「もし私があなたを洗わないなら、あなたは私と何の関わりもなくなる」(8節)。イエス・キリストはそう言って、ペトロの足を洗い、12人の弟子たちの足をすべて洗い終えたのです。

この出来事は一体、何を意味しているのでしょうか？ それはイエス・キリストが、弟子たちに対して模範を示されたということです。ご自分が弟子たちの足を洗ったように、弟子たちが互いに愛し合い、仕え

主であり、師である私があなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合うべきである。

ヨハネによる福音書 13章1～20節（一部抜粋）

合うようになることを、身をもって教え諭したのです。

興味深いことに、「しあわせ」という言葉は、幸福や幸運の「幸」という漢字を使う場合と共に、「仕合せ」といったように、“仕え合う”という表記を用いることもあります。本当の幸せとは、自己中心的な生き方をするのではなく、お互いを尊重し、お互いのことを、掛け替えのない大切な存在であると認め、自分のように愛し、仕え合うことにこそある。まさにイエス・キリストは、そのことを身をもって示されたのでした。そして最後には、ご自分が十字架につくことによって、すべての人の罪を洗い清めるといふ、究極的な模範を示されたのです。礼拝堂に掲げられている十字架、それはキリスト教のシンボルマークであると共に、神の愛がどれほど深いものであるかを私たちに語っています。そしてこの十字架を見つめる時、私たちはこの大きな神の愛に一人ひとりが包まれていることを知るのでした。

イエス・キリストの洗足について授業で語った際、或る学生がレスポンスシートの中で興味深い示唆を与えてくれました。それは TWICE という韓国のアイドルグループが、メンバー同士お互いに感謝を示すために、「洗足式」を行うというものでした。韓国にはクリスチャンが大勢いますが、その動画を視て、キリスト教的な伝統が自然な形で浸透していることを感じました。

神の独り子であるイエス・キリストは、弟子たちの足を洗うことによって、互いに愛し合い、仕え合うことの大切さ・貴さを、身をもって示されました。私たちもこの御方に倣って、人と人との交わりの中で、このことを実践して行けるように願います。

青山学院を巣立って行く皆さん一人ひとりが、「地の塩、世の光」として、豊かな貢献をされることを祈り願います。

卒業する、いま

新しい一歩を踏み出す人、仲間を送り出す人——
幼稚園から大学のみなさんに、いまの想いを聞きました。

幼稚園教諭 近藤 希望／迫田 敏幸

たいせつなあなたへ

これまで大好きな幼稚園の中で神さまに守られ、過ごしてきました。
ごっこ遊び、制作、泥団子、ロケット鬼…
あちらこちらで楽しいアイデアや明るい声が聞こえてきました。
先生たちは、みんなの持っている力にいつもびっくりしていました。
困っている友だちがいるとすぐに一緒に考えてくれましたね。
世界の平和についてもたくさんお祈りしましたね。

「お花がたくさん咲きますように」

「平和がつながりますように」

「神さまのことを忘れませんように」

神さまは、あなたのことをいつも守ってくださいます。
だから、これからも安心して歩いてってください。

そして神さまがくださる新しい出会いの中で、
あなたの優しい心を伝えてくださいね。

新しい幼稚園になっても変わらずみんなの幼稚園です。
何かあった時には幼稚園に帰ってきてくださいね。
ご卒園おめでとうございます。



幼稚園保護者会会長 古畑 悦子

卒園・進学に向けて



娘の大好きな幼稚園の日々も、終わりを迎えようとしています。何をするにも先生と一緒にないと不安で、引っ込み思案だった年少さん。先生から少し離れお友達との関わりが増え、お友達の存在を感じるようになった年中さん。多くの行事を通して世界が広がり、自分のことだけではなく周りも気遣えるようになってきた年長さん。

この3年間の大きな成長の根幹には、幼稚園の先生方が子ども達と真正面から向き合い、たくさん注いで下さった愛情と、神様に守られた幼稚園の生活があります。人生の土台となる幼児期の3年間をこのような環境で過ごすことができたこと、また親としても多くの学びの時間を与えて頂いたことに感謝の気持ちが尽きません。

卒園を前に娘は今、何事にも自信満々に眼を輝かせ、次なるステップへの気合も十分です。これから少しずつ、より広い世界へ出ていく中で、迷うこと、悩むことがあるでしょう。そのような時も乗り越えられる、心の中に必要な強さを育てて頂いたことに感謝し、また家庭がいつまでも娘の心の基地となれる場所であるよう願っています。

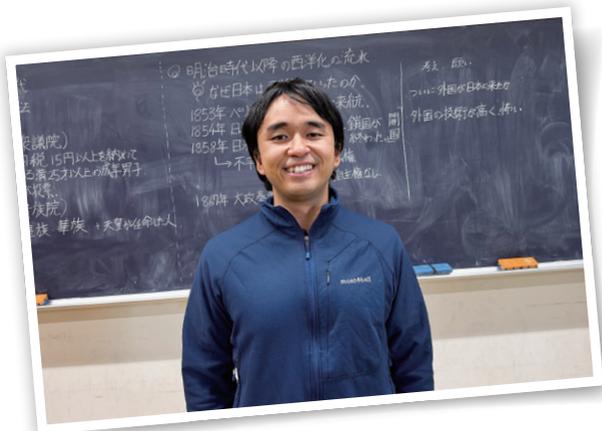


初等部教諭 真下 孝典

これまでと変わらずに

卒業を迎える今、皆さんはどのような気持ちですか。自分の昔の記憶では、不安と緊張が大きかったように思います。推薦で中等部へ進学できる学校ではなかったので、小学校の卒業で初めて全く別の環境に身を置くことになり、友達を含め環境が全て変わることが不安でした。中等部に入學する子ども達の多くも同じ気持ちではないでしょうか。

私の場合は幸いにもすぐに友達が出来て、新しい環境に慣れていきました。一緒に入學した仲間とちょっとしたきっかけで話すようになり、友達として心を開き、受け入れてくれたのです。とても嬉しいことでした。ですから、ぜひ皆さんから行動し、仲間の輪を広げられると良いですね。そのためにも初等部の児童手帳に書いてある御言葉を思い出してください。「隣人を自分のように愛しなさい。」(マタイによる福音書22章39節) この隣人とは友達や知り合いのことだけでしたでしょうか。国や所属に関わらず、隣人を愛し、そしてその賜を共に磨き、輝かせていくことを常に祈っています。





6年 西野 早祈

神様の愛は形を変えて

初等部の礼拝は虹のようにたくさんの色に包まれている。なかよしキャンプの森の緑、雪の学校の一面真っ白な世界、洋上小学校での真っ青な水平線に囲まれた船上の礼拝。どれもまるで写真のように心の中で鮮やかに映し出される。けれどわたしの一番のお気に入りには初等部の礼拝堂での礼拝。その中でもハンドベルの奉仕のある日は特別だ。

礼拝堂の冬は寒く、夏は暑いがそんな小さな欠点なんて吹き飛ばすくらいの魅力がある。それは礼拝堂のステンドグラスから差し込んでくる光だ。ハンドベルに光が当たると反射して力強く広がる。黄色やオレンジ色の光を全身に浴びると、イエス様が洗礼を受けた時に差し込んできた光や舞い降りてきた白い鳩が想像できる。私の心にひたひたとパワーが溜まり、身体中に行きわたる気がして、二年生で洗礼を受けた時を思い出す。牧師先生が私の頭をそっと押した時に伝わってきた力や、水の中から出てきた時の光のまぶしさだ。

神様の愛が光となって私の初等部生活はたくさんの色に守られ、成長してきた。



中等部教諭 井上 祐貴

神はいるのか、いないのか

先日、大学食堂で昼食をとっていると、ある卒業生が話しかけてきた。雑談すること1時間以上。その卒業生に質問された。「先生は、なんで神様を信じているんですか？」

神の存在を証明してほしいって？ それは、無理です。私は人間（有限な存在）であって神（万能な存在）ではないから。人間の理性で神の存在を証明できるのなら、それによって証明された神は、もはや神ではないでしょう。理神論で神の存在を突き詰めていっても、「おそらく神はいるだろう」ってところまでしか辿り着けない。じゃあ、何で神がいるって信じているかって？ それは、神様から「信じたい」という思い（=信仰）を与えられたから。だから、信じるか信じないかは個々人に委ねられた問い。でも私は思う。神様がいて信じて歩む人生は、とても心穏やかなものだ、と。別に、「洗礼を受けろ」って言っているわけじゃない。青山学院で過ごしたことの財産は、神がいるか否かの問いが与えられたこと。ぜひ、これからの人生を通して、自分なりの「神はいるか否か」の答えを探してみしてほしい。

3年 山本 龍雅

礼拝と音楽



まもなく中等部を卒業します。三年間を振り返ると、僕の傍らにはいつも「音楽」がありました。日々、中等部で出会う音楽、チャイムの曲名、礼拝の音楽、音楽の伊藤先生はいつも、曲名を教えて書いて下さいました。僕の好きな曲を礼拝で弾いて下さる時もありました。クリスマス礼拝の聖歌隊では響き合う歌声に神秘的な空気が漂い神様を近くに感じた瞬間もありました。母の日礼拝でのチェロの演奏。皆の心に音楽が伝わったことも嬉しい思い出です。ハンドベル部ではお互いが助け合い励まし合い、一人一人の音で友情が繋がり初めて一つの音楽が出来ること、そしてみんなで演奏する喜びの輪が、平和の和に変わることを学びました。音楽って誰のために何のために奏でるのか、そんなことも考えるようになりました。

僕が中等部で経験した音楽には、その瞬間、その一時の音楽と一緒に耳を傾け、同じ空気を感じ、一緒に何かを思う仲間や先生方が常にいました。音楽から友情や繋がりや信頼も学ぶことが出来ました。忙しい毎日の中にそんな豊かな時間があった中等部生活に感謝しています。毎日、魅了されたパイプオルガンの音色が聴けなくなるのは寂しいですが、高等部へ行っても豊かな時間持つことを大切に将来に向かって邁進していきたいです。



高等部教諭 山田 徹

旅するあなたへ



「旅するあなたへ

どしゃぶりでも 嵐でも

どんなにつらくても悲しくてもすべて神の決められたこと。

神の腕に飛び込むための旅は、いつも、神のまなざしの中。

大丈夫、大丈夫、どんなことだって明日を生きていく力になる。

すべて、神の決められたこと。

本当の幸せのために神の決められた旅」

この詩は私が社会人になる前にあるクリスチャンの方からいただいたものです。

これからの歩みの中で様々なことがあるでしょう。その中には受け入れがたい現実と直面したり、自分の思いに反するような出来事が続くことだってあるかもしれません。しかしそのようなときに運命を恨むのではなく、この人生は神から与えられたものだから無意味であるはずがない、不条理であるはずがない、そして神は最終的に万事を益としてくださると信じて積極的に生きていく態度を選択していくこと。それがこれからの旅を続けていく上で大切であると思います。

卒業生一人ひとりが心豊かに愛をもってそれぞれの旅を続けていくことができますように心から祈っています。





3年 渥美 孝文

サーバントリーダーになるということ

僕は高等部でフェンシングという見たこともないスポーツに挑戦しました。最後の1年間では男子部長を任せられ、日々、より良い部活動をめざし奮闘しました。どうやったら強くなれるのか、みんなのモチベーションを上げることができるのか、など様々なことを考える必要がありました。強いチームを作っていく上でトップに立つ監督や部長の存在はもちろん重要になってきますが、チームのために貢献しようとする部員の存在も同様に重要であると思います。それらの人は所謂リーダーではないですが、縁の下の力持ちの役割を果たしてくれます。聖書が言う地の塩、世の光とはこの様な人々のことを指しているのではないかと思います。

青山学院は僕たちが地の塩、世の光として仕える者 (servant) になるために最適な場所です。青山学院が目指すサーバントリーダーになるということは、目に見えるかどうかは関係無しに世の中の役に立つということだと思います。青山学院という神様を身近に感じる環境で、役に立つとは何かをこれからも考えていきたいです。

経営学部教授 玉木 欽也

さらなるプラスと、マイナスはプラスへ ローマの信徒への手紙8章28節

卒業される皆様に、神様と共に歩む上での人生のポイントを2つの視点から贈ります。

1. 『さらなるプラス』のポイントは、 「未来志向」と「人生の目標」を理解していること

神様が、私たち一人ひとりに人生の計画を示してくださる時は、いつも「未来志向」です。私たちが、まだ見たことがなく、考えたことがない世界を啓示されることがあります。神様は、私と助け人の働きを通して、神様と社会そして人々の役に立つことを実現したいと願っています。

その際、私の「人生の目標」は、自分のためにだけ生きるのではなく、上述したように神様と同じ思想や信念をもっていることが大切です。しかし神様の計画は、たやすく成し遂げられるものではなく、後述するようによく度の艱難を、神様の助けを求めつつ乗り越えていかなければなりません。

2. 『マイナスをプラス』のポイントは、 「自分の欠点や失敗」を認め「神の助け」を求める

他の人と比べる生き方（劣等感または優越感）ではなく、「物事の判断基準」を神様からみて正しいのかを基軸におく生き方です。日々の生活の中で、自分の欠点や弱点が何かを、自分自身で認める。それにより、他の人の弱さや失敗も赦すことができます。

自分だけでは何もできないことを悟り、神様に助けを求める。その際の信仰の武器として、神の言葉を聞く聖書、神と語り合いをする祈りと讃美歌、聖霊の内住があります。





雨も雪も、ひとたび天から降れば
むなしく天に戻ることはない。
それは大地を潤し、芽を出させ、
生い茂らせ 種蒔く人には種を与え
食べる人には糧を与える。

イザヤ書 55章10節（新共同訳）

雨と恵み

大学生生活4年間を振り返ると、1年次はコロナ禍と共に大学生生活が始まり、とても楽しみだった大学1年間が一瞬にして消え去ってしまった喪失感に打ちのめされていました。2年次以降は、コロナ禍が落ち着き、対面の授業が再会されたので「リアルな大学生活」を送れる様になりました。対面授業、ACFでの課外活動、人間関係などを通して、その場で経験することの喜びを改めて感じ、私は当たり前である事に一層、神様の慈しみを感じ、感謝するようになりました。

コロナ禍で制約のある時間、「雨」を過ごしたからこそ、その後の学生生活で友達と一緒に時を過ごせることが私にとって貴重で輝いていた瞬間でした。

社会人として歩む中で、多くの「雨」を経験するかもしれませんが、しかし、その時の経験が次の道への道標であること、また常に神様が共におられることを覚えて歩いていきたいです。

私を励ました

聖書 言葉

一人ひとりを支え導いてくれた御言葉を綴っていただきました。

*The Word of God is
alive and active.
Hebrews 4:12*

わたしの目には、あなたは高価で尊い。
わたしはあなたを愛している。

イザヤ書 43 章 4 節 (新改訳)

初等部教諭 小林 寛



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私が担任をしていたのは皆さんが1、2年生の頃でした。その記憶がつつい出て来るので、6年生での皆さんの活躍にいつも驚かされていました。徒競走での力強い走りやパフォーマンス、プロジェクトでの活躍、児童文集に載せられた作文。どれを見ても眩いほど力をつけています。

この先は精神面での成長が期待されるし実際そうなるでしょう。それは自分という存在を客観的に見つめ多角的に評価することに繋がるはずです。初等部では自己評価を大切な教育の柱として来ましたが、自分を正しく評価し受け入れることは難しいものです。

時に自分を過大評価して天狗になったり、逆に自分に厳しすぎて卑屈になってやる気を失うこともあります。他人の一言に

落ち込むこともあるでしょう。どれも健全な生活を送ることの妨げになるでしょう。そして、そのスパイラルに落ち込むと、そこから抜け出せず長引くこともあります。

でも、私は樂觀視しています。なぜなら皆さんはとても大切な存在として愛されて12年間を過ごして来ました。ご両親や家族はもちろん、友だちや私たち教員からも深く愛されています。そして、何よりもあなたたちは神の作品で、神から愛されている存在です。

あなたの価値は創造された主なる神がつけてくれます。あなたは高価で尊いと言い切ったこの言葉を心に刻んでください。

未知のステージに進むことに期待と多少の不安があっても、自分は神様から愛されている存在だと信じて進んでください。それが本当の自分に出会える唯一の道です。

だから、神の栄光のためにキリストが
あなたがたを受け入れてくださったように、
あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。

ローマの信徒への手紙 15章7節

中等部3年 片野 遥

すべてのことに感謝をして

3年間という長いようであつという
間の中等部生活がもう終わりを告げ
ます。私は中等部での3年間を
経て、人との関わり方について考える
機会が多くなりました。クラス、部
活など様々な場面で人と関わります。
そんな人間関係について考える
機会が多くなった時、教会の礼拝で
読まれたこの聖句に出会いました。友人と意見が衝突したり、すれ違いが
起きたりする時もありました。それでもこの「キリストがあなた方を受け
入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい」と
いう言葉に目を覚ませられ、相手のことをどんな形でも受け入れてみるこ
とが大事なのだと気づきました。

多種多様な個性や性格がある中で、すべての人を受け入れるというのは
簡単ではないと思います。それでもこの言葉を胸に刻み覚えていきたいです。

また、聖書には神様のご計画により人との出会いが与えられるとありま
す。今思うと友人たちとの出会いはすべて神様のご計画通りだと感じ驚き
ます。中等部で出会った大切な友人たちとの出会いに感謝し、これからの
新たな出会いが楽しみです。



求めなさい。そうすれば、与えられる。
探しなさい。そうすれば、見つかる。
門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。

マタイによる福音書 7章7節 (新共同訳)

高等部3年 佐久間 裕子

私の聖書にはたくさんの数字のメモがあります。私は、毎日の礼拝の中で、読まれた聖書箇所とその日の日付を記録しています。これは、中等部に入学してすぐに先生が教えてくださったことで、高等部を卒業する今でも続けています。この高等部での3年間、多くの聖書箇所との新たな出会いがありました。そして、私の聖書に記録された日付も3年分増えました。ひとつひとつの数字が、その日の礼拝の内容を思い出させ、そして私を励ます大きな力となっています。中でもひとときわ数字のメモが多い箇所は「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見

つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」(マタイによる福音書7章7節)です。私の記録によると、中等部に入学してからの6年間で、20回以上読まれています。私もこの聖書箇所に何度も励まされ、また、多くの人の原動力となっているのだな、とこの聖書箇所のもつパワーを実感します。

新しい旅立ちの季節に多くの人に素敵な聖書の言葉との出会いがあることを願っています。





社会情報学部4年 富澤 佑人

自らの道を拓く

私が入学したての頃は、大学生活を送る中で達成したい目標を立てて日々の学生生活を送っていました。しかし、新型コロナウイルスにより全面オンライン授業に切り替わり、当時所属していた体育会の部活動も無期限休止となってしまいました。人と接することがなくなり、コロナ禍が続くにつれてモチベーションを維持することが難しくなり、将来の未来設計を諦めてしまったこともありました。

その結果、3年次に留年しました。とてもショックでした。周りに迷惑をかけることに対して自己嫌悪にも陥り、ばつの悪さに学校に通いたくないと本気で思いました。

そんな時に、ルカによる福音書にある「求めなさい。そうすれば、与えられる」から始まる御言葉を思い出しました。私が苦境に立たされた際には必ず思い返すこの御言葉は「自らが諦めなければ神様は見てくれている」という初心を思い出させてくれます。

現在は、周りの方々や御言葉に支えられながら卒業を迎えようとしています。これからの人生で心が折れそうになっても、神様を信じて自分だけの道を拓いていこうと思います。

求めなさい。そうすれば、与えられる。
探しなさい。そうすれば、見つかる。
叩きなさい。そうすれば、開かれる。
誰でも求める者は受け、
探す者は見つけ、叩く者には開かれる。
ルカによる福音書 11章9・10節抜粋

子どもの祈り

When Children Pray

幼稚園教諭 迫田 敏幸



平和が繋がりますように

お祈りします 天の父なる神さま

わたしたちに綺麗な地球をくださって

ありがとうございます

地球のみんなのために イエス様をくださって

ありがとうございます

戦争をしていたり ご飯が無い国があります

その人たちが救われて 平和が繋がりますように

今おささげた献金を

神様の御用のために おつかいください

クリスマスの喜びが

地球のみんなに届きますように

このお祈りをイエスさまのお名前によって

おささげします

アーメン

2023年に行われたページェント（降誕劇）の中で祈りを担当した年長児6名によってささげられた献金の際の祈りです。3年間の園生活で、学年礼拝や平和を祈る会、グローバルウィーク等を通して、世界に住む様々な状況にある方々のことを知り、祈り続けてきた年長児です。そうした中で迎える今年のクリスマス。その喜びは地球の全ての方々に等しく与えられていることを皆で覚えつつ、自分の心に浮かんだ言葉を出し合った祈りの言葉です。

イエスさまの愛と平和が世界中に行き渡りますように。

編集後記

卒業の季節を迎え、ウェスレー・ホール・ニュースの第144号を卒業特集号としてみなさまにお届けします。

青山学院において、卒業はたんに社会儀礼や通過儀礼として「めでたい」ではありません。神に祝福されるから「めでたい」のです。ではどうして神は青山学院の卒業を祝福してくださるのか。御言葉によって建てられている青山学院が、御言葉を実現するために卒業生を送り出すからです。2つの特集に寄せられた教職員・生徒・学生の文章に共通するのは、御言葉を待ち望み、御言葉に励まされ、御言葉と格闘した軌跡です。

みなさんの中にはそこまで熱心に御言葉を聴いていなかったという方もおられるかもしれません。しかしクリスチャンであろうがなかろうが、青山学院で聴いた御言葉が卒業後もふと立ち現れて、神を仰ぎ見るときが来ます。人生の決断のとき、悲しみに沈んでいるとき、隣人を慰めるとき、自分を奮い立たせるとき、あなたのそばにイエス・キリストがおられます。ご卒業おめでとうございます！

大学 コミュニティ人間科学部准教授 輪島 達郎

Wesley Hall News 第144号

2024年3月1日発行

発行 青山学院宗教センター
学院宗教部長 伊藤 悟

編集 青山学院 Wesley Hall News 編集委員会
〒150-8366
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL 03-3409-6537 FAX 03-3409-8865

デザイン 株式会社マツダオフィス
印刷 株式会社イニユニック

URL <http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html>
MAIL agcac@aoyamagakuin.jp みなさんの感想をお聞かせください